

番号	7		事業名	道路改築事業		市町村名	飯山市		路河川名	(国)292号	箇所名(ふりがな)	富倉(とみくら)バイパス					
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	長野県、新潟県の関係市町村で構成する「高崎・長野原・秋山・上越間国道整備促進期成同盟会」から長年にわたる要望を受け、昭和60年度から事業に着手。その後、飯山市内の関係地区で構成する「一般国道292号改良促進期成同盟会」等からも新たに要望を受ける中で、平成5年度と平成8年度に一ノ瀬工区、平成10年度に中谷工区、平成14年度、平成17年度、平成19年度に濁池工区の一部をそれぞれ部分供用し、平成23年度に関屋工区を中心とした残りの区間を供用開始することで事業完了。													②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)	評価	
	〇伐採木をチップ化し、法面緑化の基盤材として再利用するなど、周辺環境と調和する法面緑化を図っており、自然環境への影響は小さい。 〇道路改築により冬期間の交通が安定的に確保され、冬季の生活環境が大幅に改善された。 〇交通利便性が向上したことにより飯山市街地への通行が容易になった。														A		
事業目的	本路線は大規模災害等における二次緊急輸送路に指定されているとともに、地域医療拠点病院である飯山赤十字病院への唯一のアクセス道路であるが、現道は急峻な谷地形を蛇行する一級河川長沢川と併走しており、狭隘で線形が悪く、大型車輛の通行が多いためにすれ違いに支障を来していた。さらに、豪雪地帯であるため冬期においてスリップ事故・雪崩・落雪等による通行障害も発生し、計画区域内には平成8年度道路防災総点検による落石雪崩危険箇所が7カ所含まれていた。地元住民の唯一の生活道路であるが通過交通の増加に伴い大型車輛も増え、住民の交通が脅かされてきたため、抜本的な対策としてバイパスを計画した。また、平成27年度に長野～金沢間が開業した北陸新幹線飯山駅へのアクセス道路でもある。													③施設の維持管理状況	施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)	評価	
〇線形改良と堆雪帯の確保により、冬期間の除雪作業性が大幅に向上した。 〇道路パトロールを毎週1回行っており、良好な状態の確保に努めている。													B				
事業概要	当初工期	S60年度～H20年度	費用対効果(H20再々評価時)	1.4	事業費(千円)	財源内訳(千円)											
	最終工期	S60年度～H23年度	費用対効果(評価時)	1.4	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源								
	当初計画内容(H20再々評価時)(主な工種)	L=3,910m、W=6.5(9.75～11.75)m トンネル1カ所、橋梁11橋			5,489,000	3,018,950		1,729,035	741,015								
最終事業実績(主な工種)	L=3,910m、W=6.5(9.75～11.75)m トンネル1カ所、橋梁11橋			5,489,000	3,018,950		1,729,035	741,015									
事業期間の延長、短縮理由と分析	当該区間は地すべり指定地内であり、過去には地すべり災害も発生している。そのため、地質調査や地すべりのメカニズムの解析など、地すべり防止に配慮した施工の検討に時間を要したため、3か年期間を延長した。													④地域住民等の評価	地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)	評価	
〇地元地区役員の皆様 ・地すべり、雪崩の巣にあのような立派な道路を作ってもらい、感謝している。 ・バイパスの完成により飯山市街地への所要時間が半分になった。特に冬期間の通行が格段に便利になった。 ・最近ではUターンやIターンの人も見かけるようになった。 〇地区の飲食店の方 ・平日でも県外ナンバーのお客様に来ていただけるようになった。 〇信越自然郷アクティビティセンター ・ジャパンエコトラック(自転車等の人力による移手段で旅をするスタイル)の取り組みにより新潟県との連携が増しており、新潟県側の既存ルートと連結する新たなルート設定が考えられる道路である。													A				
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	なし													改善措置の必要性	なし		
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない)													評価			
	直接的効果(定量的・定性的)	〇道路交通センサスの旅行速度を比較すると、事業着手時の昭和60年度の31.6km/hに対してH22年度は55.2km/hと1.7倍になっており、交通利便性が向上している。 〇5か年ごとの交通事故件数では、平成8年度～平成12年度の7件に対して平成23年度～平成27年度は1件と激減しており、交通の安全性が確保されている。 〇バイパス工事に伴い法面対策を実施した結果、地すべり危険箇所が解消された。													B	今後の取り組み及び同種事業への活用と課題	〇冬期間工事ができない地域であり、かつ地すべり地帯での工事であることから時間を要した。自然環境に合わせて工程を検討する必要がある。 〇本事業は着手から全区間の完成までに約30年を要しているため、期間を短縮する工夫が必要と思われる。 〇完成から5年経過しているが、施設が良好に維持されている。今後も施設点検等により適切に維持管理を行う。
	間接的効果(定量的・定性的) ※事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	〇飯山市内の教育施設、医療施設、事業所への利便性が向上。 〇長野県北信地域と新潟県上越地域の観光地を結ぶ主要なルートであり、観光振興に寄与している。 〇北陸新幹線の飯山駅と上越妙高駅を結ぶ最短ルートであることから、中野市、飯山市、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、信濃町、飯綱町、栄村、新潟県妙高市で構成する「信越9市町村広域観光連携会議」の「信越自然郷」の取り組みにおいて、新幹線駅へのアクセス道路として期待されており、新潟県側でも道路改築事業が鋭意進められている。また、ジャパンエコトラックの新たなサイクリングルートの設定が検討されている。													部局意見		〇本事業は、狭隘・線形不良箇所の解消により安全な交通を確保しており、事業の目的を達成している。 〇バイパスの開通に伴い、冬期間の交通状況が大幅に改善され、生活環境が向上している。 〇バイパス開通に伴う、飯山市街地へのアクセス向上や観光振興が地域住民からも特に評価を得ている。
													技術管理室意見	交通の円滑化と安全性の確保が図られ、事業の目的を達成している。			
													県の自己評価	〇事業目的を達成			